

データベースのアップグレード手順

対象バージョン:SSC3.0~3.6

本手順は、SigmaSystemCenter 3.0 / 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6で使用しているデータベースをSQL Server 2008 R2へアップグレードする手順について記載しています。

アップグレードの対象となるのは、SQL Serverで作成されたDeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視の各インスタンスです。

本手順書では、以下のケースを対象としています。

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンのSigmaSystemCenterで、SQL Server 2005、およびSQL Server 2008を使用されていた場合は、SigmaSystemCenterのバージョンアップが完了した後に、既存のSQL Serverインスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2005	SQL Server 2008 R2
SQL Server 2008	SQL Server 2008 R2

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.0、3.1 (Update なし) では、デフォルトでSQL Server 2008 R2 Expressがインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2008 R2 Express	SQL Server 2008 R2上位エディション

注: SQL Server 2005 / 2008 / 2008 R2 Express Edition を SQL Server 2008 R2 の上位エディションにアップグレードすると、データベースの復旧モデルが「単純」から「完全」に変更されます。このため、ジャーナルログが記録されるようになり、データベースが増加します。対処として、単純復旧モデルに設定するようにしてください。

1. 事前準備

アップグレードする前の SQL Server (SQL Server 2005、または SQL Server 2008) に修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態でアップグレードを実施すると、SQL Server 2008 R2 へのアップグレードが中断されてしまい、正しく完了することができません。

2. DeploymentManager 、 SystemProvisioning 、 SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレード するには

DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースのアップグレードを行います。以下の節の順番でアップグレードを実施してください。

2.1. DeploymentManager 、 SystemProvisioning 、 SystemMonitor 性 能監視のサービスの停止

以下の順番でサービスを停止してください。

- ◆ System Monitor Performance Monitoring Service
- ◆ PVMService
- ◆ DeploymentManager API Service
- ◆ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ◆ DeploymentManager Get Client Information
- ◆ DeploymentManager PXE Management
- ◆ DeploymentManager PXE Mtftp
- ◆ DeploymentManager Remote Update Service
- ◆ DeploymentManager Schedule Management
- ◆ DeploymentManager Transfer Management

2.2. SQL Server 2008 R2 へのアップグレードインストール

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視のインスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値) *1 と「SSCCMDB」(既定値) です。各インスタンスを SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには、以下に従って実施してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには

[https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267\(v=SQL.105\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267(v=SQL.105).aspx)

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は "「DPMDBI」(既定値)" と変更になりました。

注:

- ・ エディションのアップグレードを行う場合は、以下の手順から進めてください。
「SQL Server インストール センター」画面の左ペインにある [メンテナンス] をクリックし、[エディションのアップグレード] をクリックします。
 - ・ SQL Server 2008 R2 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。
「3.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する場合の注意事項」
-

2.3. 修正プログラム、Service Pack の適用

以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- ◆ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- ◆ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

2.4. DeploymentManager 、 SystemProvisioning 、 SystemMonitor 性能監視のサービスの開始

本手順「2.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止」で停止したサービスを開始してください。

以上で SQL Server 2008 R2 へのアップグレードは完了です。

3. 補足・注意事項

3.1. 64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を 使用する場合の注意事項

64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する場合の注意事項を記載します。

使用する Edition により注意事項の内容が異なります。使用する Edition を確認し、注意事項を参照してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合

「3.1.1 SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合」を参照してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合

「3.1.2 SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合」を参照してください。

注: 本内容はアップグレード元の SQL Server が x86 アーキテクチャの場合の注意事項です。アップグレード元の SQL Server が x64 アーキテクチャの場合の注意事項はありません。

3.1.1. SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合

SQL Server 2008 R2 Express にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストーラは、Microsoft ダウンロードセンターから SQLEXPR_x86 (32 ビットと 64 ビットの両方 (WoW) の OS へのインストールをサポートしている) を入手してください。
- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストーラを実行する際は、コマンドプロンプトで「/X86」オプションを付けて実行してください。

3.1.2. SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合

SQL Server 2008 R2 上位エディションにアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ 「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、[プロセッサの種類:] から "x86" を選択します。その後、「2.2 SQL Server 2008 R2 へのアップグレードインストール」から入手したアップグレードインストールの手順に従って、アップグレードしてください。

3.2. DPM が使用する DPMDBI インスタンスのアンインストール

本手順に従って SQL Server 2008 R2 へアップグレードを実施すると、SigmaSystemCenter のインストーラから、DeploymentManager が使用する DPMDBI インスタンスをアンインストールすることができなくなります。アンインストールを実施する場合には、以下の手順に従ってください。

注: 本内容は SigmaSystemCenter 3.0、および 3.1 に関する注意事項です。

<Windows Server 2008 以降の場合>

1. コントロールパネルより、[プログラムと機能] をクリックします。
2. 「Microsoft SQL Server 2008 R2」を選択して、[アンインストール] をクリックします。指示に従って「DPMDBI」インスタンスのアンインストールを実施してください。

<Windows Server 2003 の場合>

1. コントロールパネルより、[プログラムの追加と削除] をクリックします。
2. 「Microsoft SQL Server 2008 R2」を選択して、[削除] をクリックします。指示に従って「DPMDBI」インスタンスのアンインストールを実施してください。

作成日:2011/06/20
最終更新日:2017/05/16